

週刊IYO球児

2019.12.14

第14回 硬式ボールに親しむ会に参加

野球人口拡大に貢献

中学生との交流 野球の楽しさを実感

特集

☆マネージャーの独り言☆

○普段は一緒に仕事をする事のない他の高校のマネージャーさんたちと仕事をしました。みんな気付くのが早かったり、言葉遣いがしっかりしていたりして、当たり前のすごさを実感しました。私たちも見習って、もっとテキパキと行動したいです。

○松商のマネージャーと一緒に仕事をしてたくさんの発見がありました。松商のマネージャーさんは、やはり目配り、気配り、心配りがきちんとできていて、私も気付かされたことがたくさんありました。ただ、食後のお弁当の下げ方など私たちがやっていることと同じこともありました。今日学んだこと、見習ったことを生かして、お手本のマネージャーになれるように頑張りたいです。

☆選手の感想☆

○他校の選手と一緒に中学生と交流して、日頃から練習でしているであろうことが分かりました。全力でプレーする中学生の姿を見て、2年前の自分があのように取り組んでいたかなど考えました。済美高校のノックでは「さすが、済美」と思いました。中学生の姿や自分たちが夏に勝たなければならない相手のノックを見て、自分たちが好きでしている野球を最大限に楽しむことを第一に、本番で持っている力をすべて発揮して戦うためのメンタルを鍛えることが必要だと思いました。

○硬式ボールに親しむ会では、済美高校のノックと北条高校の澤田監督のお話が印象に残っています。済美高校のノックは、最初から雰囲気がよくできていてボール回しもエラーが少なく、強いボールを投げる事ができていました。自分たちもあれ以上のボール回しができるようになりたいと思いました。澤田監督のお話から、目的と目標を明確にして野球に取り組むこと、道具の手入れや礼儀をきちんとして自分を成長させることの大切さを学びました。自分たち伊予高校野球部にも「最大限の自己成長」「伊予高校部活動の顔になる」という目的と、「甲子園一勝」という目標があります。その目的、目標を改めて確認し、向上心を持って野球に取り組みたいです。

○硬式ボールに親しむ会を通して、改めて野球を楽しむ心を見直すことができました。いつもはしんどいことも多いけど、中学生に教えるという立場で野球をやってみると、中学生が一生懸命野球をやっている姿を見て「野球っていいな」と改めて感じる事ができました。誰もが楽しめる野球をこれからも楽しみながら、「甲子園一勝」という目標を達成できるように練習に取り組んでいこうと思いました。また、他の高校生と一緒に活動する中で、自分たちがやっていることは負けていないと感じました。声出しにしても、プレーにしても、自分たちの方が全力でできていたと思いました。そしてなにより野球を楽しんでいたと思うので、自分たちの強みとなることを伸ばしていこうと思いました。今後の野球離れを減らしていくためにも自分たちが引っ張ってきたいです。